

第49回造血幹細胞移植委員会

「骨髄ドナー休暇制度」の重要性について



特定非営利活動法人フレンドシップ

- 1、フレンドシップの活動のご報告
 - 2、フレンドシップの活動の現状
 - 3、問題→ドナーと患者の数に比例の移植例数
 - 4、解決方法→社会的にもあたりまえとなり、提供に背中を押せる社会にする
 - 5、結論→そのためにも、国の法整備として認定休暇が必要
-

1、活動のご報告

ドナー休暇制度導入の普及推進

提供に必要とされる期間については特別休暇（有給）が認められるように

●各団体様へ導入のお願い

●企業様へのドナー休暇制度導入のご検討をお願い

加入企業様（掲載希望企業様）



- 「特定非営利活動法人フレンドシップ」
- 「公益財団法人日本骨髄バンク」
- 「全国ドナー休暇制度推進連絡協議会」

ホームページにリンク付きで掲載 ※掲載にも一切費用はかからない。

民間企業では現在、約 400 社の企業様に導入いただいている

●企業の負担軽減のための法や制度の整備を国や自治体に向けて活動

全国ドナー休暇制度推進連絡協議会へのご協力

2、活動の現状

●草の根活動（企業・団体）

現在までに、地域のライオンズクラブ15件、ロータリークラブ10件、倫理法人会5件など、経営者が集まる会に出向き登壇。

直接企業様へご訪問し、ご説明し、草の根活動をしてまいりました。

団体様などは、即答導入はいただけませんが、直接お話を聞いていただいた企業様はご理解いただけることが多くありました。

現在ドナー助成制度導入の自治体は市区町村が1,741ある中、309市区町村が導入しています。これは誠に、ありがたいことです。

心より感謝申し上げます。

日本骨髄バンクのデータより抜粋

日本骨髄バンクの現状 (平成 28 年 1 月末時点)

	現在数	累計数
ドナー登録者数	457,384	659,388
患者登録者数	3,143	47,076
移植例数	-	19,102

日本骨髄バンクの現状 (平成 29 年 6 月末現在)

	現在数	累計数
ドナー登録者数	474,185	704,743
患者登録者数	3,143	51,348
移植例数	-	20,869

現在までの年代別ドナー登録者数 (平成 28 年 1 月末現在)

10 代	2,779 人
20 代	70,200 人
30 代	142,136 人
40 代	189,733 人
50 代	52,536 人

- 国際協力の現状 ※平成 27 年 12 月末現在
 < 海外ドナー⇒国内患者 > 累計移植数 :184 件
 < 国内ドナー⇒海外患者 > 累計提供数 :254 件

骨髄バンクを介して 2 回提供された方 (累計数)1,253 人 ※平成 27 年 12 月末現在

3、問題→ドナーと患者の数に比例の移植例数

累計でみると 日本骨髄バンクの現状(平成29年6月末現在)

ドナー登録者数 / 患者登録者数 = 移植例数
704,743 名 / **51,348** 名 = **20,869** 名 ※骨髄バンク調べ

適合患者数(累計)40,950人 適合報告ドナー数 279,430人

移植の現状からしてまだまだ必要。

ドナー登録者のメインは30代、40代

責任がかかる年代に取りやすい休暇が必要。

4、解決方法

**社会的にもあたりまえとなり、
提供に背中を押せる社会にする**

安心できる会社でヨカッタ~! の巻



全国ドナー休暇制度推進連絡協議会にご協力し

協議会が進めていく目標

自治体からの
助成・制度設備など

「ドナー休暇制度」の法制化

国の法定化
(助成・制度設備など)

5、結論

提供するためには、欠勤届けで休まなければならない。
提供のための休暇を認めてあげれない



そのためにも

国の法整備として「ドナー休暇」が必要

国の法整備として「ドナー休暇」が認定されれば

社会的に「ドナー登録」「提供」「ドナー休暇」
があたりまえとなり、
誰もが、提供に背中を押せる社会に変わって行く。

ドナー提供が献血のように抵抗なく当たり前になる



結果

ドナー登録者もドナー提供者数も増え、適合格率も増える。



日本全体の質が上がる

Thank you!



ご連絡 /03-5730-1077